

南東北「夢見るジュニアホッケー教室」実施報告書

- 1 事業名 南東北「夢見るジュニアホッケー教室」
- 2 期 日 令和2年11月15日（日）
- 3 会 場 福島県棚倉町「ルネサンス棚倉多目的広場」

4 事業内容

(1) 参加団体（小学3年生から6年生の男女）

築館ホッケースポーツ少年団（宮城県）
一迫ホッケースポーツ少年団（宮城県）
川西ホッケースポーツ少年団（山形県）
よねざわホッケースポーツ少年団（山形県）
棚倉ホッケースポーツ少年団（福島県）
東海ホッケースポーツ少年団（茨城県）

参加者総数 80 名

【講師】

小林真由美（さくらジャパン日本代表候補選手）
及川 栞 （ 〃 ）

【運営スタッフ】

棚倉中学校男子女子ホッケー部
地元高校生指導者、中学生指導者
男子・女子クラブ

計 34 名

(2) 日 程

9：30 開教式（主催者挨拶：内藤副会長、歓迎のことば、講師紹介）
9：45 ウォーミングアップ
10：00 基本トレーニング（ドリブルテクニックを中心に）
11：45 お昼休み
13：00 交流試合（男子・女子別）
14：45 閉教式（講評・サイン入りグッズ抽選会）

(3) 成 果

南東北県の他、茨城県から東海スポ少チームも加わり、80名参加の大規模な教室となった。

コロナ禍の影響により活動自粛や活動範囲の縮小により思うように活動ができていなかった参加各チームにとっては有意義な時間を過ごせたと講評を得た。

ただ、参加者が多かったために、講師2人では負担が大きかったと思うが、地元スタッフのバックアップもあり、参加者全員均等に声をかけられたと考える。

競技の他、中央テントには、さくらジャパンのユニフォームの展示、2年前のアジア大会ハイライトDVDをプロジェクターにより放映を行い、参加児童ほか保護者の方々も興味を持って観ていた。

閉教式の最後には、講師2人からの講評、そしてサイン入りグッズの抽選会を行い、大いに盛り上がりを見せ終了することができた。

コロナ対策としては、申込み参加者の検温を数日前から実施、記録（一覧表を事務局に提出）し、また、当日来町した保護者等の方々にも検温、名簿への記載協力、更には、受付時のアルコール消毒の徹底、式典時でもできるだけ選手間を空ける、トイレや水道口があるところには、手洗い薬用石鹸やアルコール消毒を配置するなどの対策をおこなった。



